

【7】大学等の進学について

ここ最近、経済状況の低迷から各企業においては競争力を高めるために、より高い専門性を持った人材を求めるようになってきました。

また経済の悪化・高学歴化が進行する中で本校においても約4割の生徒が進学しています。

これからは従来の「工業高校＝就職」だけでなく「工業高校で専門の基礎を身につけ進学する」道も考慮に入れて考える必要があると思っています。

ただし進学と一口に言っても「いい仕事がないから、就職したくないから」などと消極的な進学では決していい結果は生まれません。また「どの大学を出たか」ではなく「何をどれだけやってきたか」「何ができるのか」が就職では問われる時代です。

進学を決める前に、次のことをしっかり考えてみましょう。

★「工業高校で専門の基礎を身につけ進学する」

★消極的な進学はやめたほうがいい！

★卒業後の就職では「何をどれだけやってきたか」「何ができるのか」が当然問われます。

〔1〕進学を決める前に

①何のために進学するの？

進学は「目的」ではなく、ただの「手段」にすぎません。技術者になるために、研究者になるために、教師になるために、この学校に行きたい...など目的を明確にすべきです。



★進学は社会へ出る手段に過ぎない！

②進学にかかる「経費」はいくら？、誰が負担するの？

受験料、入学金、授業料だけではありません。最も費用のかからないコースに行ったとしても、多額の「経費」が必要です。就職していれば当然得られるはずの収入も「経費」の内に入れて考えるべきです。

奨学資金・教育ローンなどいろんな助成の制度があるのでそれらも参考に、家族みんなで話し合い、計画を立てる必要があります。

進学する場合の経済的な負担は、ほとんど両親に頼ることになることをしっかり認識しなければなりません。

★進学費用は親が負担

★県外進学
仕送り月10万円以上

③自分自身で決めた進路、責任をとるのも自分

能力、適性、経済状態等の条件を考えるためには家族や教師の意見に素直に耳を傾ける必要があります。しかし、最終決定をするのも、また、その結果がどのように終わろうとも、その責任をとるのは自分であることをしっかり肝に銘じて考えましょう。

④自分の人生計画、経済状態、適性にあった学校は

「進学」と一口に言うが、大きく分けても大学、短大、専門学校と3種類もあります。さらに学科、コースまで考えると選択の幅は非常に広くなります。

後悔しないように、オープンキャンパス、進学説明会などを利用して、自分の目と肌で直接確認した上で、じっくり考えよう。



〔2〕大学進学に向けて

①心構えの6ポイント

本校は工業高校です。日本の産業を支えるべく工学部をはじめとする理科系大学への進学がほとんどです。教科の中でも数学、理科、英語などの力をつけることが重要です。合格を手にするには次のことを確実に実行していきましょう。

- a . 大学進学の意味・目的・やりたいこと等早く見つけ、持ち続ける。
- b . 受験に必要な科目の学習計画を立て、実行する。
- c . 必要な補習は必ず受け、わからないことは必ず先生に相談する。
- d . 勉強と併せて、資格取得・部活動の実績をつくる。
- e . 受験資格・合格には学習評定も関係してくるので、普段の学習も当然がんばる必要がある。
- f . ライバルを見つけお互いに刺激しあう。



②調査書

3年間の学習成績・行動・性格の記録・出欠席の記録・健康状況などが記載されます。学習成績欄には「評定平均値」「学習成績概評」が記入されます。

●a. 「各教科評定」

各教科の点数は表aによって5～1の5段階で評定します。

●b. 「学習成績概評」

すべての教科・科目の評定平均(小数以下第2位4捨5入)を表bによって5段階に分類し、AからEで記入します。大学・専門学校入試の受験資格・合格基準に関係してきます。

「学習成績概評」

学習成績評定	全体の評定平均値
A段階	5.0～4.3
B段階	4.2～3.5
C段階	3.4～2.7
D段階	2.6～1.9